

## 2020 年度実施概要

学校名

三重中学校

採択活動名

松阪の海は豊かだった。未来はもっと豊かに。地元の海を ESD の観点で学ぶ取組

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 巻末ページ 歴史を学んで	2	社会
2.		
3.		

取り組みの概要

## \*海流と漂流ゴミの問題

社会科として実施、歴史の授業の終わりに、公民への導入として取り入れた。今までは、歴史を振り返りながら、概観するだけで最後の授業を行っており、次の学習内容について関心を持ち、歴史が未来につながっていくといった意識を芽生えさせるようなことは行っていなかった。そこで、今回自分たちが体験し、感じたことで未来につながるものとして、1年時に行った海の学習の内容を取り入れた。漁協の方の取り組みや松名瀬の現況を思い起こし、海の未来を考えた。体験したことでまた、身近な地域のことであり、自分たちの社会のことを考える公民への導入としては、三重中学校ならではのものとなった。

\*松阪もめんは海の豊かさで支えられた。北海道の名付け親、地元出身の『松浦武四郎』は、アイヌのニシンからの肥料に目をつけていた。

今回、コロナ禍の関係により、全体で行いにくく、次年度以降に全体で行うことを見越して、科学クラブの生徒を中心に実験・研究・発表を行った。いろいろ議論を重ねながら、今までの文献を調べるとともに、本当に肥料として干鰯が良いのかを、肥料なし・一般的な化学肥料・干鰯で比較して行った。教材にも載せたが、干鰯が効果的であった。実施する中で、生徒が主体となり、理科だけではなく、社会科学を考えながら実施でき、海洋教育サミットや日本科学未来館のオンライン発表もさせていただいた。

## \*松阪の海の利用 塩田→海苔・アサリ→未来は？ 水の循環 水質データ

この内容も、全体では行いにくく、漁協と県の水産研究所と科学部でトライアル的に行った。9年間の水産研究所のデータを提示してもらい。また、松阪漁協の状況の発表を受け、ディスカッションをし、今後新しい方法でアサリを増やす取り組みを学んだ。今後、地元の方々にどう周知するか、また、モニタリング調査を共同でやるといった話になった。

また、以前から行っている学年全体の松名瀬フィールドワークも10月ではあるが無事させてもらったり、クラブ活動の調査研究もさせていただいた。その結果、こどもエコクラブの壁新聞コンテストにて、全国ベスト4に入った。

